

注目！在宅医療関連サービス 012

まさみつ合同会社

内海光雄・岡まさ美

代表社員 CEO

サービス責任者



046-280-5774

masamitsu41014@gmail.com

神奈川県厚木市愛甲4-10-14

厚木市では、ALSや脳性麻痺といった重度の障害があっても「自分らしく暮らしたい」という想いを実現できる重度訪問介護が広がっています。政治の現場から当事者となり介護の実態を深く見つめてきた経験、そして仲間と築いたチームワークを通じて、安心できる24時間体制の生活支援を行う「まさみつ合同会社」生まれました。食事・入浴・外出といった日常の楽しみを大切にしながら、厚木市で実現した新しい介護の形、地域への障害理解の広がりまでを詳しく紹介します(2025年11月取材)。

厚木市議から利用者へ。ALS・脳性麻痺と向き合い見えた「重度訪問介護」

まず、お二人の経歴について教えてください。まず内海さんは、元々厚木市の市議会議員だったと伺いました。

内海：はい。私は養護学校を卒業後、25歳から35歳までの10年間、歯科医院のコーディネーターとして働いていました。その後、ここ厚木市で市議会議員に立候補し、2期（8年間）務めさせていただきました。

岡：内海さんは若い頃、本も出版していたんですよ。学校訪問や教壇に立ったりと、爽やかな青年でした。そして厚木市のために働いていた40代半ばの頃、体調が悪化し、車椅子での在宅生活が始まりました。



そこからなぜ、ご自身で重度訪問介護の事業所を立ち上げるに至ったのでしょうか？

内海：在宅生活になり、自分のケアをしてくれるヘルパーさんを探したのですが、事業所から「対応できるヘルパーがない」と断られてしまったんです。これが現実かと痛感しました。

それならば、同じように困っているALSや脳性麻痺の方々のためにも、「自分で仲間を集めてやるしかない」と。それが約20年前、最初の事業所を立ち上げたきっかけです。

利用者さんご自身が、内海さんのように事業所を立ち上げるケースはあるのでしょうか？

岡：実は、この業界では決して珍しいことではないんです。特にALS（筋萎縮性側索硬化症）の患者さんに多いですね。

既存のサービスだけでは生活が成り立たないため、例えばALSの旦那さんが自分で事業所を立ち上げ、奥様を従業員として雇用してお給料が発生する形にする、といったケースはよく耳にします。

自分たちの生活を守るために、自分たちで「仕組み」から作ってしまう。それくらい切実な状況から生まれる選択肢の一つなんです。

なるほど、生きるための能動的な選択なんですね。岡さんは、どのような経緯でこの世界へ？

岡：私は元々、保険会社の営業職をしていました。当時の保険屋仲間が、内海さんの事業所で働いていて「重度訪問介護のアルバイト、やってみない？」と誘われたのが入り口です。

資格（統合課程）を3日間で取得して内海のケアに入ってみたら、保険の仕事よりも直接的に人の役に立てる手応えがあつて。そこからどっぷりとこの世界に入り、現在は保険会社を退職してまさみつ合同会社にフルコミットしています。



ALS・脳性麻痺でも自分らしく暮らすために。

内海さんは以前、厚木市内で「奇跡」という大きな重度訪問介護事業所を運営されていたと伺いました。

内海：はい。前の事業所は18年ほど運営し、スタッフ40名、年商1億円規模まで成長しました。厚木市の重度訪問介護事業所としてはかなり有名になり、ALSや脳性麻痺の利用者さんも4~5名抱えていました。

しかし、組織が大きくなるにつれ、「小回り」が利かなくなっていました。



小回りが利かない、とは具体的にどういうことでしょう？

岡：人数が増えると、どうしても管理や効率が優先されます。利用者様一人ひとりの「今、これがしたい」という細かい要望に応えるのが難しくなるんです。

内海さんは「もっと利用者一人ひとりの人生に寄り添いたい」という想いが強かった。そこで、あえて大きな組織を離れ、小回りの利く新しい会社として「まさみつ合同会社」を2年ほど前に立ち上げました。

現在の体制はどうなっていますか？

岡：現在はスタッフ11名体制で、内海さんの重度訪問介護を24時間365日、完璧に行う体制を構築しています。

「たった1人のために11人？」と思われるかもしれません、ALSや脳性麻痺の方を在宅で支えるには、これくらいの人数が必要なんです。スタッフにも生活がありますし、急な体調不良もあります。1ヶ月に1~2回は必ずシフトの穴が出ますから、そこを埋めるためにも、厚みのある人員配置が不可欠なんです。



一般的な訪問介護と、合同会社まさみつが提供する重度訪問介護の決定的な違いはどこにありますか？

岡：徹底的に「生活の楽しみ」を追求している点です。多くの事業所がリスク管理のために切り捨ててしまう「食」と「入浴」....

続きを読むQRコードからアクセスしてください → → →

